特集　防災教育

□防災教育を〈未来教育プロジェクト学習〉で推進しよう

中央防災会議専門調査会委員　未来教育デザイナー　鈴　木　敏　恵

“その瞬間“自分で何とかできる力を！

その瞬間、自分でなんとかする！　その強い意志を子どもたちの身に宿したい。
防災リテラシー…それは知識でもスキルでもなく、生きる！という「意志」。災害が起きたその瞬間、目の前の事態を自分の目で判断し、適切な行動がとれる勇気がいる。それは前向きな強い気持ちを持てるかにどうかにかかっている。ここに主体性や思考力、解決力を育てる「意志ある学び--未来教育プロジェクト学習」が活きる。

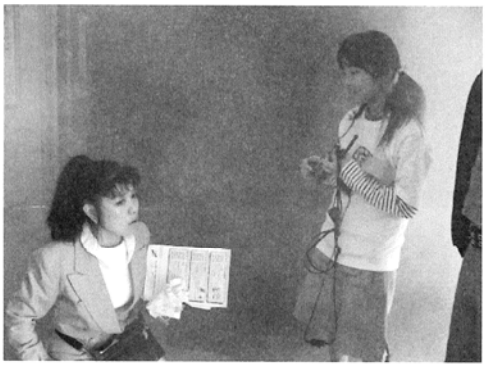
4つのリスク教育

ふだんは気づかないが私たちが生きる毎日には、さまざまな危険が起こり得る。例えば、「携帯電話」によって起こる危うさ。生きるために口にする「食品」に潜むあやしい添加物。

また生活を破たんしかねない「金銭」トラブル。避けようがない「災害」という危険。この中でももっとも生命に直結するのが「災害」だ。いま「生きる力」という表現がしばしば使われるが、大人たちが本気で「生きる力を子ども達に、」と願うなら、これらのリスク教育をしっかり行う必要がある。なかでも災害時にどう対応したらいのかという文字通り生命に直結する「防災教育」こそ急ぐ必要がある。

いままでの「避難訓練」だけではダメ

広域的な災害時、自治体や行政機関が助ける「公助」は間に合わない。まずは自分で自分を助ける「自助」のパワーこそものをいう。それは、非常ベルが一斉に鳴り、「さあ教室の机の下に!静かに素早く校庭に整列!」と教師が与えた指示にきちんと従うという学校行事化した避難訓練だけで身につくものではない。子どもたちに「自助力」を付けたいなら目の前の事態を自分の目で見、判断し適切な行動がとれる力がつく教育こそ必要だ。ここに意志ある判断や行動力が身につく、〈未来教育プロジェクト学習[1]〉が有効となる。



大津小学校の子ども達が企画した防災訓練の日。スモーク状態のとき「どう避難したらいいか、」を子どもに教えてもらっている筆者。2002年11月16日

A．「防災教育」未来教育プロジェクト学習の共有のために

高知市立大津小学校では、防災教育をく未来教育プロジェクト学習〉で行い大きな成果を得た。子ども達が「防災に関する知識」や「スキル」を身につけたばかりでなく、意欲的に取り組み意志をもち「自分の頭で考え判断できる力、自己評価でさらに向上する術(すべ)」を身につけた。(平成14年度「第7回防災まちづくり大賞」受賞、働消防科学総合センター理事長賞。)

筆者は中央防災専門会議(2002年9月)にて、この事例をプレゼンテーションした。その際、「防災教育の優秀な事例として、その成功手法や学習プログラムを共有化できないか?」という意見が多くあった。そこでここに、子ども達が確かな力と成長を遂げる「防災教育一未来教育プロジェクト学習」がどこの学校でも実施できるよう高知市立大津小学校で行われた防災プロジェクト学習の実践と手法を具体的に紹介するものである。まず子ども達が「意欲」をもって進行するために有効な「未来教育プロジェクト学習」について説明する。

B．＜未来教育プロジェクト学習＞とは

〈未来教育プロジェクト学習〉とは、子ども達がもっている「やる気」や「イメージする力」「ロジカルな思考スキル」「問題解決力」など21世紀を生きる力を最大限に引き出す新しい学習手法である。「災害」はもちろん、どんな「学習題材」にも対応できる普遍的プラットホームだ。そのスピリットである「意志ある学び」を叶えるために次のような特徴をもつ。

(1)活動の「ねらい」と「価値」を子ども達に伝える

「何のために」この学習をするのか、この学習をすることでどんな力がつくのか?このプロジェクトは社会的にどのような「価値」があるのか?を子どもと共有する。教師はすべてをスタート

1 鈴木敏恵が提唱する、子どもの意欲と21世紀を生きる力を身につけることを果たす、新しい教育プログラム詳細→http://www.suzukitoshie.net/2001/projectga.jpg

1，活動の「ねらい」と「価値」を子ども達に伝える
2，「ビジョン」「ミッション」「ゴール」が明確なこと
3，プロジェクトの「基本フェーズ」で進めること
そして・・・その活動プロセスや成果を「ポートフォリオ」化していくこと

する前に子ども達に説明する。それにより子ども達は、意欲をもって取り組むことができる。

(2)「ビジョン」「ミッション」「ゴール」が明確なこと

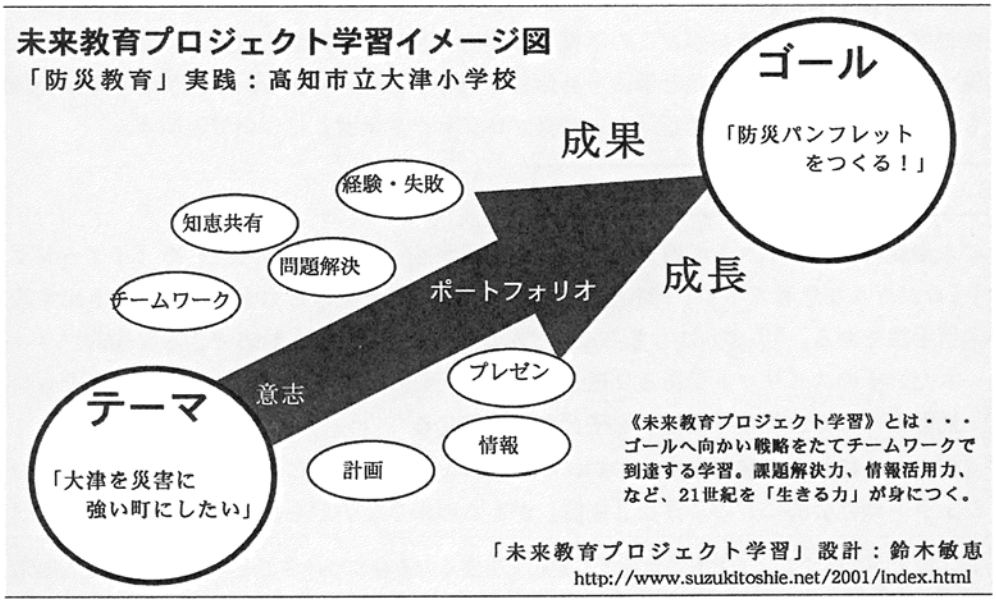
プロジェクト学習のテーマは、「ビジョン」「ミッション」からなる。ビジョンとは「○○にしょう!」という、あるべき将来の姿。ミッションとは、「○○のために」という使命感。

そしてそれを叶えるために具体的に何をするか、それが「ゴール(達成目標)」となる。

「何のために、何をやりとげたいのか」このテーマとゴールに対し、子ども自身も関わるなど、コンセンサスを重視する。それが意志をもち進めることができる秘訣。

(3) プロジェクトの基本フェーズで進める

まずプロジェクト学習について子どもに伝える。ビジョンやミッションが込められたテーマを生みだし、チームを組み、戦略を立て、情報を集めゴールへ到達する、このプロジェクトのイメージ(下図参照)を子ども達に最初に提示することで意志が宿る。



◆「ポートフォリオ」化

プロジェクト学習の流れは、準備→テーマ・ゴール→計画→情報リサーチ→制作→プレゼンテーション→再構築→評価という基本フェーズで進め、その活動や成果のすべてをポートフォリオ化しておく。

「ポートフォリオ[1]」とは、「紙ばさみ・書類鞄」の意味、つまりバラバラのものを一元化するもの。バラバラでは価値を持たないが、一元化しておくことで重要なことや自分の成長などを見出すことができる。子ども達は学習プロセスにおいてやった活動の様子や自己評価、集めた資料やパンフレットや成果を一冊のファイルに時系列に一元化していく。ポートフォリオを俯瞰し客観的に現状を見ることができるため、これから何をすべきかも考えられる。

「意志」と「考える力」

「何のために何をやり遂げたいのか」それはどう進めるのか、ということを子どもが理解してからすすめることが大事。なぜなら「考える力」を身につけてほしいからだ。「考える」ためには、「意志」が必要。「意志」をもつには「知る」必要があるのだ。未来教育プロジェクト学習はここを必ず教師と子ども達が共有してから行うことを最大の特徴とする。

C．「防災プロジェクト学習」成功事例……高知市立大津小学校

高知市の大津小学校6年生における取組である。大津の「津」の字が示すとおりに、地盤が低く、今も災害の心配とともにある学校だ。学校を訪問すると「ここまで来たのよ」と安藤校長先生が見せてくださる、4年前のその水位の恐ろしい高さ。子ども達の心には4年前の恐ろしい大雨の記憶が残っている。いまでも大雨が降ったとき、子どものうち何人かは不安定になり雨の中を奇声をあげて、走り回る子もいた。「子どもの心を何とかしたい。子どもたちの身を守ってあげたい。」という気持ちが担当の岡先生はじめ先生方の胸に湧いた。

「怖いなら、危険なら、なお災害に対座しよう!防災プロジェクトをしよう!」ということで、「総合的な学習の時間」に「防災教育」をプロジェクト学習でスタートした。

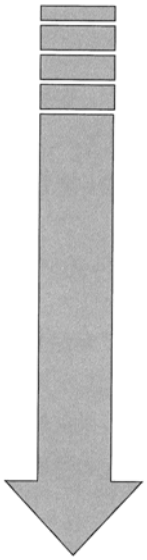
岡敦子先生は、前任校である高知市立旭東小学校にて川崎ひろか先生(現在、高知市立鴨田小学校)とともに筆者と一緒に未来教育プロジェクト学習を 100 日間以上一緒に行った経験をもっていたので今回、その戦略的展開を駆使することができた。次に、各フェーズを追い戦略的なアドバイスを盛り込みながら、大津小学校の防災教育の内容を伝える。

1 建築家やジャーナリストがもっている作品歴。自分の活動や成果などこれまでの「歴」を自分の意志で一元化しておき、自分の未来に役立てるもの。現在、総合的な学習の時間など数値化できないものを評価する手法。撫

p://www.suzukitoshie.net/2001/P-1po-tojpg

D．「防災プロジェクト学習」フェーズ展開

準　備



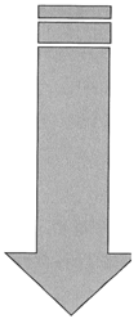
●目的:「災害」を意識し、災害に対する「知識」や「見方」を広げる

●活動:災害の体験談、専門家の話を聞く・イメージをもつ

プロジェクト学習の題材が「災害」であることを子ども達に伝える。子ども達は、ふだんは意識していない「災害」というものを意識することにより、いろいろ気づくようになる。身近な人や専門家、体験者などから「災害」について話し伺うことで、災害に対し、多面的、多角的なものの見方ができるようになる。その怖さ、リアリティーが「災害に対し、このままじゃいけない。何かできることしなくちゃ!」という意欲となる。「″公″が助けに来てくれるころには多くの方が亡くなっていた。生きるか、死ぬかという、その瀬戸際のときには、まずは自助か共助なんだ。自分の命は自分で守ろう、友だち同士助け合えるようにしよう。」という神戸の大震災時のリーダーの話しが子どもの心に強い動機付けとなった。

●実践のコツ:この「準備」の期間を十分とって徐々に災害に対する意識をもっていく。題材に対する知識が増え、感性が立ち上がり、関心や問題意識が湧きテーマとなっていく。一人ひとりが問題意識を持たなければ、意志ある学びは成立しない、だからここが肝心!プロジェクト学習の成功はこの準備の時間をたっぷりとることに掛かっている。

テーマ・ゴール



●目的:プロジェクトに不可欠なテーマとゴールを決める

●活動:話し合い・チームづくり

プロジェクトのテーマとゴールを子ども達と話し合いながら決定する。

大津小学校の子どもたちの中に強く記憶にあるのは、4年前の恐ろしい大雨の体験であり。また彼らが40歳になる間に40%という高い確率で南海地震が来る可能性があるというリアリティだ。結果的に『大津を災害に強い町にした。』がテーマとなった。自分たちだけが、助かればいいのではなく、みんなも助かって欲しい、だから「防災ハンドブック」を作って広めよう!。これが各チームの目指すテーマ4となった。

●実践のコツ:よりリアルなイメージがいかにもてるか!

プロジェクト学習成功の秘訣は、明確なテーマとゴールの存在。

プロジェクト全体のテーマは「現実的」で「志」を感じるものがいい。
防災力が一番発揮されるのは、災害が実際に起きたときだ。しかし災害は一発もの、環境や地域という題材とは違いその知識やスキルが役立つ場面はそう起こらない、ゆえに学習意欲の継続がむずかしい、しかしプロジェクト学習では、明確なゴールへ向かうことで、意欲の減衰をふせぐことができるばかりか、使命感をもって意欲的に継続することができる。

計　画

●目的:すべきことを考える
●活動:情報リサーチの計画立て・アンケートづくりなど
全体を見通し目標を達成するためにすべきことを考え、その優先順位を決め、それに基づき細部を決定していく。
●実践のコツ:「計画」は言い換えれば戦略だ。その主たる活動は「情報リサーチ」となる。限られた時間のなかで、何を何のために知りたいのか?ここをしっかり事前に決める必要がある。漠然と調べるのではなくて、「自分が手に入れたいものは何なのか?」ここがはっきりしていないと延々と調べる作業がつづいてしまう。

情報リサーチ

●目的:課題解決のために必要な情報を手に入れる
●活動:施設訪問・インタビュー・アンケート等
高知市防災対策室/日本赤十字高知支部/高知気象台/高知市立東消防署/地域まち・・等へ情報リサーチのためのアポイントメントも子ども自身がとる。ここにもプロジェクト学習ならではの視点が生きる。「調べ学習」のアポイントメントであれば「今度消防署に行ってもいいですか」「教えてください」となりがちだが、プロジェクト学習にはビジョンとミッションがあり、明確なゴールがあるので、「大津の町を災害に強いまちにするために僕たちはやっています。だからぜひお願いします」と言える。この目的意識があることで社会の方の協力が大変に得やすくなる。
「どういう防災対策をしていますか」というように、子どもが地域の方にインタビューする。「南海地震の恐ろしさを知っている」という回答は多いが「そのために何かしていますか」という質問に対しては30%切っていた。(子どもは数が多いので機動力があり、地域や消防署もやったことがないような本格的リサーチとなった。)この他にもテレビ電話を活かし、自分たちが調べた津波の価値ある情報を下川口小学校へ伝え互いに情報交換、知恵をシェア

した。下川口小学校は最近、とても大きな水害の被害を受けた学校だ。

●実践のコツ:「学習のゴール」は「社会のニーズ」を!

制　作

プレゼンテーションで提示するものを制作する。何のためにやっているのか、テーマは何なのか、根拠ある情報で展開できるか?を再確認。プレゼン義テーションを見た人が「私たちも気をつけよう」とか「こんな危ないのか。じゃ、こうしたらいいのね」ということを説得力を増すために、きっちり内容がロジカルでなければいけない。

プレゼンテーション

「災害にはこう備えたらいい」という各チームの提案(P48 参照)を地域の人々や保護者へプレゼンテーションをする。一番大事なのは、スキルではなく「防災に備えよう!」という心意気をしっかり伝えることができるかどうかだ。ここにこのプロジェクトへむかう子どもたちのミッションがものを言う。

再構築

●目的:「防災パンフレット」をつくる

●活動:これまでの成果を一冊に凝縮する

ポートフォリオにたまった価値ある情報を、凝縮し「防災パンフレット」を作成する。活動に終わらない学習にするために、これはとても大事なこと。

評　価

●目的:この学習におけるねらい「防災力」は身についたか、成長を確認する

●活動:自己評価・相互評価・社会からの評価

プロジェクトが終わったときにポートフォリオを見返しながら自分の成長や変化を見だし、防災力やいろいろな力がついたか、という評価を自分たち自身でする。

子どもたちの自己評価の抜粋

「はじめは地震がおきても大丈夫だと考えていた。起こることもないだろうとおもっていた。だけど本当はおそろしいことで、非常食なども用意しておかなければいけないし、逃げる時の注意があり、車で逃げてはいけないことや逃げてはいけない所があることがわかった。もう数十年で地震が起こることも分かった。」　「まったく防災のことを考えず、南海大地震が起きるかもしれないこともしらなかったけれど学習したあとは、防災のことを考えることができるようになったし、災害の知識が増えた。」　「この学習が始まる前には、全然防災の事について関心をもっていませんでしたが、この学習を始めだすと防災の事について興味がわき、中でも津波の事、命の大切さが一番理解できました！！だから今、南海大地震が来ても大丈夫です！！」「テレビで災害のことについて放送していると前と違ってよく見るようになった。」

災害に強いまちづくりプロジェクト学習とポートフォリオ活用

「防災教育」実践：高知市立大津小学校６年生
担当：高知市立大津小学校教諭　岡敦子
「未来教育プロジェクト学習」設計：鈴木敏恵

子どもたちが災害に対する恐怖心を乗り越え、すべての子どもが将来必ず起こる可能性が高い、南海地震に備えて「防災力」を身に付ける事をねらいとした学習である。

ねらい	1．子どもたちに防災力をつけたい。 2．情報を活用する能力を育てたい。 3．主体的に取り組むことのできる態度を育てたい。 4．自己評価力をつけ自分の変化や成長に気付かせたい。

準備・意識化
7月・休み　①

↓

テーマ・ゴール
9月　②

↓

計　画
9月

↓

情報リサーチ
10月　③④⑤

↓

制　作
11月　⑥

↓

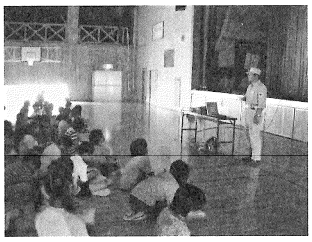
プレゼンテーション
12月

↓

再構築
防災パンフレット作り
1月

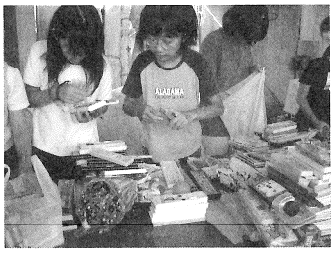
↓

評　価
成長エントリー
2月

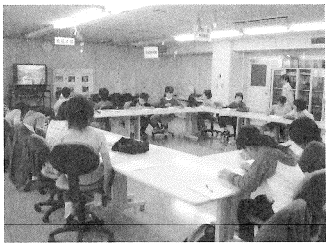


①日本赤十字社の方から全員で防災やボランティアについてのお話を聞く。

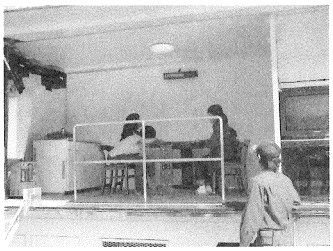
②ボードに子どもからでたキーワードを書き、自分が取り組みたいテーマでチーム分け



③西南豪雨の救援物資の仕分けボランティアに参加し、下川口小学校等へ届けてもらった。



④高知市防災対策室へ情報リサーチに出かけ、防災カメラで高知市の様子を見せてもらう。



⑤消防署から起震車をお借りし、南海地震・兵庫県南部地震等の振れ体験を全員が行なった。

⑥ファイルに入っている情報を付箋に書き出して、情報を整理し、まとめた。

情報：http://www02.so-net.ne.jp/~s-toshie/

災害に強いまちづくりプロジェクト学習＜テーマ一覧＞

「大津を災害に強い町にしたい！」と大テーマを持ち、１７のプロジェクトチームが次のようなそれぞれの「テーマ」を決め、「ゴール」を設定してプロジェクト学習を進めていった。

防災プロジェクト/各チームのテーマ一覧

1	地震プロジェクト	地震を調査しすべての人々のために地震に強い県にしたい
2	ビッグウェーブ・プロジェクト	津波を調査し津波対策を学習して、みんなに伝えたい
3	ボランティア・プロジェクト	ボランティアをされて、うれしかったことを調査し、ボランティアにこれから参加する人のために教えてあげたい（下川口小と交流）
4	土砂災害プロジェクト	森林や土砂災害を調査し、大津地域の人のために、災害を防ぎたい
5	水害プロジェクト	高知豪雨と西南豪雨を調査し、大津と土佐清水の人たちのために町と災害に強くしたい
6	ボランティア・プロジェクト	救援物資を調査し、困っている地域の人たちのために役立つ救援物資を提案する
7	水害（避難）プロジェクト	水害が起こった時のために、防災グッズを大津地区の人たちに知らせたい
8	地震対策プロジェクト	南海地震のことを調査し、地域の人たちのため役に立つ情報を伝えたい
9	火災プロジェクト	地震によって起こった火災を調査し、人津の人々のために、地震の時火災の起こらない町にしたい
１０	防災プロジェクト	防災について調査し、大津の人に防災について伝えたい
１１	台風プロジェクト	台風の被害を調査し、被害を受けた人たちのために大津を災害に強い町にしたい
１２	ボランティア・プロジェクト	いろいろなボランティアを調査し、大津地区の人たちのために喜んでもらえるボランティアを教えたい
１３	水害（国分川）・プロジェクト	国分川を調査して、地域の人々のために水害や地震のときに安全に避難できる方法を知らせる
１４	南海１・プロジェクト	南海地震について調査し自分達のために、未来のために高知を災害に強い町にしたい
１５	２０３５年前後南海大地震 あーらビックリプロジェクト	南海大地震の被害を調査し、高知県と周辺に住んでいる人の今後のために対策を調査したい
１６	非常食プロジェクト	非常食を調査し、災害などが起こった時役に立つ情報を伝えたい
１７	災害弱者・プロジェクト	災害弱者について調査し、災害弱者に役立つボランティアを提案する

保護者の方に、防災プロジェクト学習の発表を行った。

大津地区自主防災組織合同防災訓練で、バケツリレーを体験。

子ども達は、このプロジェクトで「防災力」や「考える力」「目標を立て、達成する力」「地域との助け合い」「チームワーク」など本当にたくさんの力を身につけた。「防災ハンドブック」への評価も高く、この町の役に立つ！という使命感も感じた。いま彼らの笑顔に誇りがあふれている。

だから・・さあ！日本全国の学校で防災教育を＜未来教育プロジェクト学習＞ではじめよう！

未来教育デザイナー / 一級建築士 / 千葉大学教育学部講師　鈴木敏恵
s-toshie@ca2.so-net.ne.jp